

## 米国 自動車販売が全体を牽引し高い伸び（10年10月小売売上高）

発表日：2010年11月15日（月）

～一方、コア小売は家電、家具の減少により拡大ペース鈍化～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治

03-5221-5001

### 10月の小売・飲食サービス売上高は前月比+1.2%と市場予想の同+0.7%を上回った

10月の小売・飲食サービス売上高は、自動車、建材等の増加により前月比+1.2%（前月同+0.7%）と加速し高い伸びを維持した。市場予想である同+0.7%を上回ったうえ、8、9月合計で+0.3%上方修正された。10月の小売売上高は雇用・所得増加や株高等を映じて、高い伸びとなった。変動の大きい自動車を除く小売・飲食サービス売上高は、前月比+0.4%（前月同+0.5%）と市場予想通り（8、9月合計で+0.1%上方修正）。建材、衣料品が拡大した。

小売売上高の基調を示すコア小売売上高（自動車・ガソリン・建材を除く小売・飲食サービス売上高）は前月比+0.2%（前月同+0.4%）と鈍化した。飲食店、食品・飲料、スポーツ用品・本・趣味用品、百貨店等一般小売が増加幅を拡大し、衣料品が増加に転じた。一方、通信販売が拡大ペースを鈍化し、家具、家電、薬局、その他が減少に転じた。

### 小売・飲食サービス売上高（Retail and Food Services Sales）

| 小売・飲食サービス売上高 |      |        | 耐久財関連（*1） |      |      |      | 非耐久財関連（*2） |      |      |      |
|--------------|------|--------|-----------|------|------|------|------------|------|------|------|
|              |      | 除く車    |           | 自動車  | 家具   | 家電   |            | 衣料品  | ガソリン |      |
| 10/01        | +0.3 | (+4.0) | +0.4      | ▲0.3 | ▲0.3 | ▲0.6 | +2.4       | +0.7 | +1.7 | +0.6 |
| 10/02        | +0.6 | (+4.7) | +1.2      | ▲0.9 | ▲2.5 | +2.4 | +3.1       | +0.9 | +2.0 | +0.3 |
| 10/03        | +2.1 | (+8.5) | +1.2      | +5.9 | +6.6 | +2.4 | ▲1.4       | +0.7 | +2.7 | +1.2 |
| 10/04        | +0.3 | (+8.7) | +0.3      | +1.9 | +0.5 | ▲2.5 | ▲0.3       | ▲0.4 | ▲1.3 | +0.1 |
| 10/05        | ▲1.0 | (+6.9) | ▲1.3      | ▲2.2 | +0.0 | ▲0.9 | +0.9       | ▲0.6 | ▲0.5 | ▲2.7 |
| 10/06        | ▲0.3 | (+5.2) | ▲0.0      | ▲1.2 | ▲1.6 | ▲1.0 | +0.7       | +0.1 | ▲0.1 | ▲2.4 |
| 10/07        | +0.5 | (+5.6) | +0.3      | +1.0 | +1.4 | +0.9 | +0.0       | +0.3 | ▲0.2 | +1.8 |
| 10/08        | +0.9 | (+4.2) | +1.0      | +0.4 | +0.2 | +0.4 | ▲1.0       | +1.1 | +0.3 | +1.6 |
| 10/09        | +0.7 | (+7.4) | +0.5      | +1.4 | +1.5 | +0.2 | +1.4       | +0.5 | ▲0.4 | +1.2 |
| 10/10        | +1.2 | (+7.3) | +0.4      | +3.4 | +5.0 | ▲0.7 | ▲0.7       | +0.4 | +0.7 | +0.8 |

（出所）商務省（Department of Commerce）

（注）数字は季調済前月比。但し、（ ）内は前年同月比（未季調）。

\*1:耐久財関連は、自動車・家具・家電・建材関連の売上の合計。

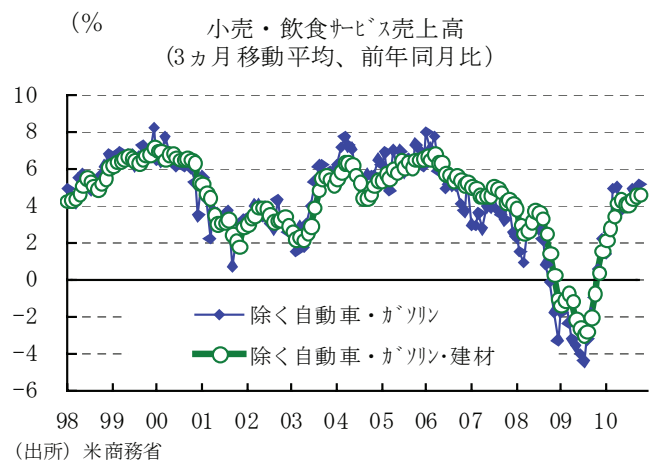
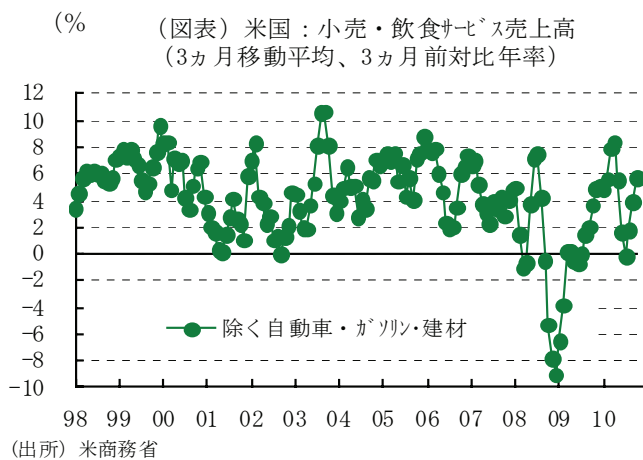
\*2:非耐久財関連は、小売売上高の合計から、耐久財関連を除いたもの。

### ドルが弱含み、10年債利回りは低下した

小売統計発表直後の市場の反応をみると、小売売上高が予想を上回り、自動車を除く小売売上高が市場予想通りだったものの、同時に発表された11月のNY連銀製造業景気指数が▲11.14とマイナスに転じ市場予想を大幅に下回ったため、金利が低下、ドルは対円、対ユーロで下落、株価先物が下落した。

**コア小売売上高は3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率+6.9%とプラス幅拡大**

小売売上高のモメンタム（3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率）では、変動の大きい自動車を除く小売・飲食サービス売上高は+6.9%（前月+2.7%）とプラス幅を拡大した。このナンバーはガソリン価格上昇の影響を受けるため、小売売上高の基調を示すコア小売売上高（自動車・ガソリン・建材を除く小売・飲食サービス売上高）をみると、+5.7%（前月+3.9%）とプラス幅を拡大しており、小売売上高のモメンタムは強まっている。8月に減税、値引き、気温の上昇によって押し上げられた影響を受けており、実態以上に強い内容になっている。しかし、この要因を排除しても、小売売上高は失業率の高止まりや信用コストの高まりが続く中、雇用者所得の増加、減税や失業保険の給付などによる所得の押し上げ、株高、マインドの最悪水準からの改善、企業の販促等によって、拡大ペースを小幅加速している。



**10～12月期の実質個人消費は前期比年率+2.5%と前期並みの伸びに**

10月のコア小売売上高（平均）は、7～9月期比年率+3.1%と7～9月期の前期比年率+3.9%から減速している。一方、10月の自動車販売台数は7～9月期比年率+24.9%（7～9月期前期比年率+8.0%）と加速している。11、12月も所得増や株高等に下支えされ、現在の拡大ペースを維持するとみられることから、10～12月期の実質個人消費は前期比年率+2.5%（7～9月期は同+2.6%から小幅下方改定される見込み）と前期と同程度の拡大ペースを維持する公算が大きい。

**実質個人消費は緩やかな拡大ペースを維持**

2011年前半にかけての消費動向に関しては、雇用者所得の増加、値下げ販売、資産価格の下げ止まりなどが押し上げ要因となるものの、失業保険給付期間の延長終了、失業率の高止まり、所得の低い伸び、銀行の消費者ローン向け融資基準の厳格化による信用逼迫・借入れコストの上昇等が抑制要因となり、個人消費は緩やかな拡大にとどまると見込まれる。ただし、株高が持続すれば資産効果によって消費の拡大ペースは加速すると予想される。